

【テーマ3】 国立大学法人 大阪教育大学

「指標を活用した研修の計画・実施・評価システムの開発」

調査等の概要

◆課題認識

・育成指標の学校現場への浸透が進んでおらず、また、どのように指標の活用を図っていくのかが大きな課題となっている。

・行政研修においては、指標をエビデンスとして研修を計画・実施・評価する営みがほとんど創出されていない。

◆システム開発の目的

育成指標を活用した行政研修を計画・実施・評価する取り組みを通じて、育成指標を活かした行政研修の改善サイクルのモデルを提案する。

◆システム開発の手順

堺市の管理職層に対して育成指標を材料としてアンケート調査等を行うとともに、育成指標のルーブリックを作成する。それをもとに行政研修を計画・実施・評価する。行政研修後に研修内容を活用しているか等の追跡調査を実施する。それらのプロセス等のモデルを作成するとともに、その妥当性・有効性を第三者評価にて確認する。

◆協力者

・堺市内の小学校90校、中学校42校、その他（小中15校）の管理職全員

・聞き取り対象者
小学校2校、中学校2校の管理職

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

・育成指標のルーブリック化

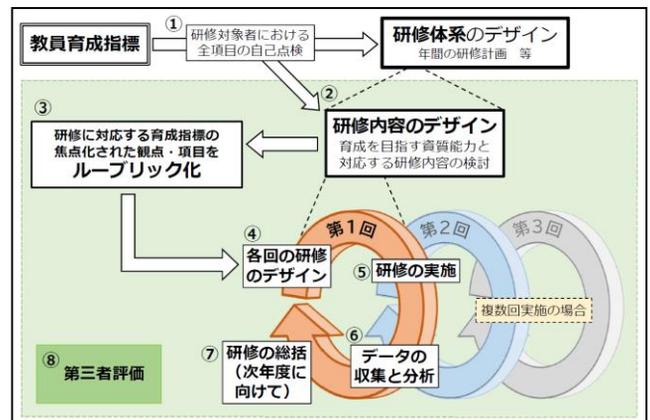
育成指標の実践的有効性を高めるため、各観点・項目の内容を具体化してレベル分けし、自治体独自の状況をふまえたルーブリックを作成した。それにより、教育委員会側においては研修内容等を精練させることができるとともに、研修受講者は育成指標の内容を詳細に自己点検できる。さらに各項目についてのレベルアップを意識し、行動できる。教育委員会は、ルーブリックを用いることによって、研修終了後にもその成果を追跡調査しやすくなる。

◆本事業の成果

・開発会議を重ねることにより、管理職を対象とする育成指標の観点・項目に従って行政研修を計画・実施・評価する営みを、徹底できた。

・研修受講者の評価アンケートにより、研修の充実を確認できた。また、それが研修受講者の資質・能力を高めることに結実したことも確認できた。

・これらを通じて、育成指標を活かした行政研修の改善サイクルのモデルを構築できた上に、それを手順書に表現できた。



今後の課題

◆行政研修の改善サイクルの運用

- ・本事業で対象としなかった育成指標の項目のルーブリック化とルーブリックの見直し。
- ・評価アンケート、第三者評価の結果を取り入れ、行政研修の質的向上を実行する。
- ・自己点検の結果等を活用し、行政研修の体系についても検討する。

※ 上記項目については一例であり、適宜変更してかまわない。

※ 別紙イ-②については、文部科学省において公表する場合がある。